状

況

写

直

取材	中東地区まちづくり協議会 金子みすゞ・雅輔の会				
<u>先</u> 企 画	《詩人・金子みすゞ》誕生100年プロジェダ	クト	つなぐ つか	ながる	 下関から未来へ
					1 12/10 22/12/1
_ <u>考_</u> 取 材 日	<u>2023年10月22日(日)</u> 天候[晴れ] 「13:30~15:30	取材地	下関市役	と所エン	トランスホール

1903年4月11日大津市仙崎村(現在の長門市仙崎)で生まれ、実父の死去を受け、再婚相手の住まいである下関市唐戸に移り住んだ金子みすゞ。20歳で創作活動を始め、26歳で生涯の幕を閉じるまで512編の詩を残した。その創作の根源である下関で、金子みすゞを紹介している中東地区まちづくり協議会、金子みすゞ・雅輔の会のイベント《詩人・金子みすゞ》誕生100年プロジェクト"つなぐ つながる 下関から未来へ"の会場にお邪魔した。ステージでは

- ・下関商業高等学校吹奏楽部の金管7重奏と演劇部のコラボレーション
- ・養治小学校児童による手話を交えた朗読
- ・文関小学校合唱クラブの透き通るソプラノの歌声
- 名陵小学校児童による朗読

そして、金子みすゞの詩に曲をつけ歌い語るシンガーソングライター"ちひろ"さんのライブへと流れていった。 ステージを取り囲む壁面には、書家・吉冨晶子氏の作品、木原豊美氏の研究資料、「NPO法人スペシャルオリンピックス日本・山口」のアスリートの詩画が優しく包み込む。市役所のエントランスホールというややもすれば無機質な空間にもかかわらず、そこを流れる空気は金子みすゞのやさしさで溢れていた。雅輔は金子みすゞの実弟であり、彼女の存在を世に知らしめようと奔走した功労者である。

金子みすゞの詩にはリズムがある。メロディーは流れてこないがロずさむことができる。何故?疑問は疑問のままでいい。答えは時間が教えてくれる。エントランスを出てしばらくの間「金子みすゞ詩の小径」を散策しようと思った。



吉冨氏の作品



木原氏の研究資料



スペシャルオリンピックス 日本・山口の詩画







朗読



合唱



ちひろさん